

- 導入 -

暗闇の中、四人の女が一様に息をひそめている。

季節は冬。窓の外は嵐。時刻は、午後の八時を回ろうかというところ。ここは、とある大学のキャンパス中央に位置する第一部室棟の一室——軽音楽サークル”Knight Music”の部室である。

四人はいずれもこの大学に通う学生である。しかし、その関係性を説明するのは殊のほか難しい。学科も違う、サークルも違う、バイト先も違う。通う大学が同じという点を除けば、意外にも彼女たちに共通項は少ない。

が、皆無というわけでもない。例えば、全員が喫煙者であること、人生は騙し合いと信じて疑わないこと、楽をするための努力は惜しまないこと、そして——……

では、次頁を参考にプレイするキャラクターを決定し、共通シナリオを読んでください。
(もう少しキャラクターのことを知ってから決めたい皆様は、共通シナリオを読んでからプレイするキャラクターを決めても構いません)

- キャラクター紹介 -

①矢豆原希（やまめはら のぞみ）

- ・性格：ものぐさ
- ・容姿：髪は黒のショートボブ、巨乳で長身で足が長い
- ・学部：文学部哲学科
- ・サークル：軽音楽サークル
- ・アルコール耐性：強い
- ・最初一杯：ビール
- ・その他：低血圧、タバコの銘柄はショートホープ、唐揚げには“マヨネーズ派”

②七条星乃（しちじょう ほしの）

- ・性格：社交的
- ・容姿：髪は栗色のゆるふわロング、小柄で小顔でナチュラルメイク
- ・学部：理学部物理学科
- ・サークル：特定のサークルには所属していない
- ・アルコール耐性：皆無
- ・最初一杯：ウーロン茶
- ・その他：自称恋愛の達人、タバコの銘柄はセブンスター、唐揚げには“タバスコ派”

③日々木薫子（ひびき かおるこ）

- ・性格：唯我独尊^{ゆいがどくそん}
- ・容姿：髪は黒のロングストレート、華奢で色白で^{さんぽくがん}三白眼
- ・学部：薬学部薬学科
- ・サークル：オカルト研究会
- ・アルコール耐性：無限
- ・最初一杯：プレーンチューハイ
- ・その他：資産家の家系、タバコの銘柄はエコー、唐揚げには“ハチミツ派”

④平和穂（たいら かずほ）

- ・性格：大雑把、たまに几帳面
- ・容姿：髪はブロンドのショートにピンクのインナーカラー、丸顔で歯並びがいい
- ・学部：文学部英文学科
- ・サークル：文化祭実行委員会ほか多数
- ・アルコール耐性：並
- ・最初一杯：ハイボール
- ・その他：関西弁、タバコの銘柄はピース、唐揚げには“ケチャップ派”

- 共通シナリオ -

——パチンという音とともに、部屋の明かりが消された。

部屋の中は、完全な闇に閉ざされる。光を失い鋭敏^{まいびん}になった聴覚は、窓をしたたかに打つ鈍い雨音を捉えるばかり。冬の嵐が、四人の呼吸や衣擦^{きぬず}れの音を塗りつぶす。狂いのない単調なそのリズムは、さらに時の流れすら曖昧^{あいまい}に感じさせて茫洋^{ぼうよう}と横たわる暗闇を一層濃く感じさせた。

「……ちょっと誰よ、足、邪魔なんだけど」

闇に体が融け出していきそうなその空気を切り裂いたのは、星乃の刺々しい声だった。ところが、いつまで待っても返事はない。さらに剣呑^{けんのん}な口調を強めて、星乃は詰問する。

「ねえ、誰って訊^きいてんだけど」

「うるさい」「やかましいですわ」「静かにしいや」

星乃を除く三人は小声で諭^{さと}した。隠れ潜むためにこんなことをしているのだ、騒がれては堪^たまらない——そう言わんばかりに。星乃も大きな鼻息を立てて不満を示しはしたものの、それ以上は何も言わなかった。

すると、今度はどこからか扉を開ける音がした。室内に緊張が走る——まさか見つかってしまったのか、と。しかし、幸か不幸かそれ以上のことは結局なにも起こらず、何の扉を開ける音だったのかも判然^{はんぜん}としないまま、再び部屋に沈黙が訪れる。

ここで、一度目の雷鳴が轟^{とどろ}く。瞬きよりも短い刹那^{せつな}、室内は稲光^{いなびかり}に照らされる。

一度目——というからには当然、間もなく二度目があるのだが四人はもちろんそのことを知らない。

そして、雷鳴が止む頃にはまた、暗闇が部屋を包み終えている。飽きもせず雨音の奏でる退屈な調べがまた室内を支配し始めたと思った矢先、しかし二つの出来事が立て続けに起こる。

まずは、レモンの匂い。ふわりと香ったその匂いは、ゆっくりと時間をかけて部屋中に広がった。

続いて、物音。甲高い金属音や余韻^{よゐん}の残る楽器の音とは全く違う、単純に物と物がぶつかったような変哲^{へんてつ}のない音だ。

なに、今の音——と、誰が口を開くかを譲り合うような、もどかしい沈黙が虚空を滑る。その間を埋めるのは、やはり相変わらずのしたたかな雨音。譲り合いは予想外に長く続いたが、終止符は思わぬ形で打たれた。

二度目の雷鳴が轟く。瞬きよりも短い刹那、再び室内は稲光に照らされる。

暗闇が舞い戻った後も、雷鳴の残滓はゴロゴロと唸るように数瞬の間にわたって響いていた。その音に紛れるように、扉を開け閉めするような音が一度だけしたのを、その場にいた全員が耳にした。

続けざまに、落下音が部屋の空気を揺らす。あまり大きくはない金属製の物が、どこか高いところから落ちたような音であった。

今度は、互いを警戒するようなびんと張り詰めた沈黙が訪れる。静寂の中であれば、ごくりと生唾を飲み下す音が一つならず聞こえたかもしれない。が、耳朶を打つはやはり雨音ばかり。揺らめく闇が、時間感覚すら曖昧にしてゆく。

「……そろそろ、いいんじゃないか」

「そうですね。じゃあ星乃、よろしくですわ」

「なんでまたあたしなのよ、嫌よ。じゃんけんなら受けて立つわ」

「見えへんやろ……まあええわ、特別サービスでうちが行ってきたる」

四人の会話の数瞬後。

——パチンという音とともに、部屋には白熱灯の明かりが戻る。

暗闇に慣れた眼が、ほんの一瞬眩むように滲んだ。ゆっくりと焦点を結び直してゆく視界に、一見したところでは先ほどまでとなんら変わらない室内の様子が映る。入り口の扉近くには電気のスイッチがあり、和穂はそのそばに立っている。彼女以外の三人は、決められた席でこたつに足を突っ込んでいる。不自然なところなど何もない——ように思えた。

しかし。

いくつかの異変は、確実に生じている。

最初にそのうちのひとつに言及したのは、こたつに戻ってきた和穂だった。

「え……誰かレモン絞ったん？」

見ると、和穂の席の小皿に置かれたハイボール用のカットレモンがつぶれている。果汁を搾り取られた後の状態だ。たしかにこれは不可解なことだった。偶然でこうなるとは考

えづらい。不審感を持って観察してみれば、次なる異変に気付くまでそう時間はかからなかった。

四人の声が重なる。

「ど、どうして？ どうなってるの？ そんな、まさか！」

「まさか、まさかとは思いますが……この中に裏切り者が！？」

「信じられへん……闇に乗じてこないなことをなんて」

「ですが……ですが！ 現にレモンは絞られていますわ！」

異変の正体——こたつの上の唐揚げから、レモンの匂いがした。

これは事件に他ならないのである。

なぜなら——そう、数にすれば多くはないものの、彼女たち四人にはいくつかの共通項がある。例えば、全員が喫煙者であること、人生は騙し合いと信じて疑わないこと、楽をするための努力は惜しまないこと、そして——……

そして——唐揚げにレモンをかけるやつは許さないと、かつて四人で ^{ちか}誓い合ったこと。

どんなにくだらなくとも、このことは ^{まぎ}紛れもない事実なのであった。

ゆえに、これは事件に他ならないのである。

～～～

時を少しだけ ^{さかのぼ}遡る。

部室へやって来た四人の手には、スーパーの袋が大量に握られていた。袋の表面を滑り落ちた雨水が、リノリウムの床へ不連続に ^{しな}滴る。

「……え、なにこの部屋、なんでこんなに片付いてるの？」驚きの声を上げる星乃。

「相変わらず整理整頓されていますわね、感心しますわ」これは薫子。

「嘘やろ、部室ってもんは全国共通で汚いもんやと思っとったわ……」和穂に至っては絶句と表現してもいい反応である。

そんな三人を ^{しりめ}尻目に、淡々と袋の中身を冷蔵庫にしまっていく希。呆れたような、困ったような口調でこう説明する。

「部長が恐ろしく几帳面な人なんだ。間違っても汚して帰ってくれるなよ、怒られるのは私なんだから。……ったく、いつも通りオカ研の部室でもよかっただろうに」

「嫌ですわ、この雨の中あんな遠くまで行くの。それに、自慢ではないですけど我がオカルト研究会の部室には冷蔵庫も電子レンジもありませんのよ」

「そうよ。バスも電車もこの嵐で動かないからって、長期戦覚悟でお酒と食べ物をたくさん

買い込んできたのに。常温で置いたら不味くなるじゃない」

「長期戦もいいが」諦観の表情を庫内灯に淡く照らされながら、希はいつになく抑揚のない声で言う。「八時には警備員の見回りがあるから、本来なら学生はそれまでに部室棟から出ておかないといけないんだ。八時以降も居座るつもりならやり過ごす方法を考えておいてくれ」

「八時に見回り……ってことは、それまではそない大騒ぎできへんな」和穂は、赤いメタルフレームの伊達メガネ越しに、部室の奥へと目をやった。「——ほな、とりあえずこたつ入ってもええ？」

こうして、こたつに落ち着く四人。

気づけば、とある遊びが始まっている。

ダイスを振って、出た目に応じて話者を決め、話者は自分の”恥ずかしい話“をするというシンプルな遊びである。ただし、非常に危険な遊びなのでよい子のみんなは絶対に真似をしてはいけない。

「はあああああああ？ またあたし！？ これでもう五回目よ！ おかしいわ！ 絶対に何か変よ！」

「観念しい、星乃。ダイスは神様や、言う通りにせなあかん」

「だって理論的におかしいわよ！ 確率は収束するものなのに！ 希なんてさっきから全然あたってないじゃない！」

「私はこういうの苦手なんだよ、知ってるだろ」

「そんな理由であたらないなら、あたしだってドイツ語の授業で音読させられることないわよ！」

「往生際が悪いですわ。どうせストックもたくさんあるんでしょ、主に男性関係で」

「ちょっとそれどういう意味よっっ」

そうこうするうちに、時刻は八時へと近づいていった。見回りとはいっても、しょせんは雇われの身の警備員が巡回するだけのことである。部屋の電気を消し、中でじっと息を殺して沈黙していればやり過ごせる程度のものだった。

空腹を感じ始めていた四人は、こたつの上に食事を広げるなど先に宴会の準備をしてから、部屋の電気を消すことにした。警備員をやり過ごし、再び電気をつけたらすぐに飲み食いを始められるようにという食い意地がそうさせたのであった。

そして。

宴会の準備を終え、こたつにすっぽりと収まる四人。八時までもうわずか。しかし、誰もこたつを出て電気を消しに行きたくなかったのだった。

「神様の言う通り、ですわ！」

薫子がダイスを振る。神様のご指名は、またしても星乃。

「永遠に幾何学しろっっっっっっ！」

独特の表現で神への怒りを顕わにし、星乃は豪快なフォームでダイスをゴミ箱へ全力投球した。そして、その足で入り口の扉近くへ向かい、電気のスイッチに手をかける――

一條^{いちじょう}の月明かりすら地上に届かせまいと空に垂^たれ込める、黒く分厚い雨雲。その姿はまるで、この部室に訪れる不吉な未来を、カーテンの引かれた窓の外から予言しているようですらあった。

——パチンという音とともに、部屋の明かりが消された。

～～～

時間を戻す。

今、四人の目の前には唐揚げが鎮座^{ちんざ}している。そして、どれほど顔を近づけて観察してみても、その唐揚げの表面がレモンの汁で濡れているという事実は変わってくれそうにないのだった。

「誰が食えるか、こないな唐揚げ！ くそっ！」

「そうよ！ 誰がこんなことを！？ 許せないわ！」

「待て待て、なに被害者^げ面^{めん}してんだ？ お前らが犯人かもしれないだろ」

「そうですわ！ あなたたちのこと、まったくもって信用できませんわ」

交錯^{こうさく}する視線。疑惑^{ぎわく}の色を湛^{たた}えた八つの瞳。睨^{にら}み合いの中、疑心暗鬼は徐々に輪郭^{りんかく}を持ち始める。

この中に、“レモン派”がいる——？

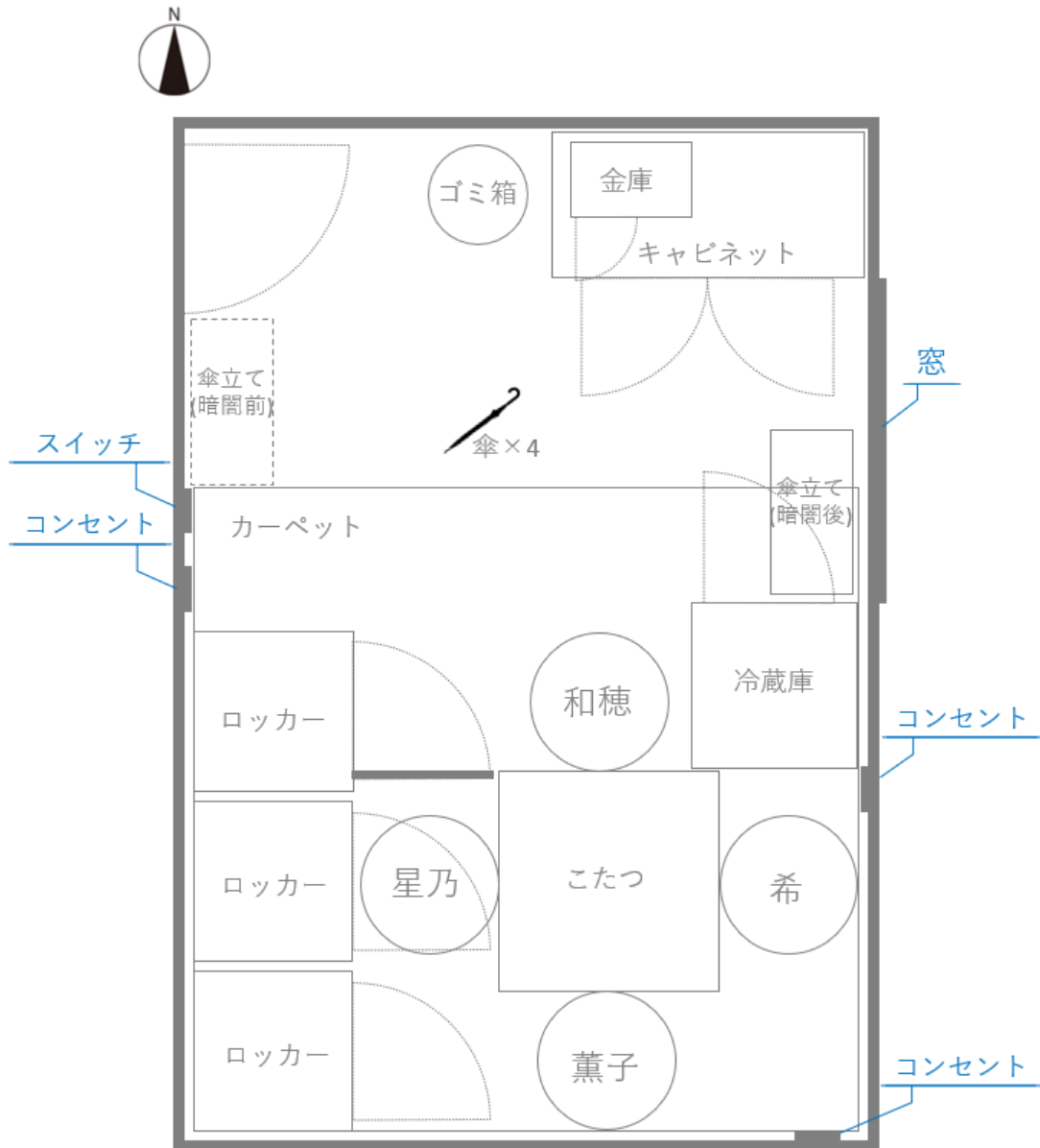
どうあれ、この場に存在する選択肢はひとつしかなかった。たったひとつの、しかし冴^さえないやり方だ。それを成し遂げたところで、唐揚げが元に戻るわけではない。それでも、彼女らはそれを選択するしかないのだった。

たったひとつの冴えないやり方——

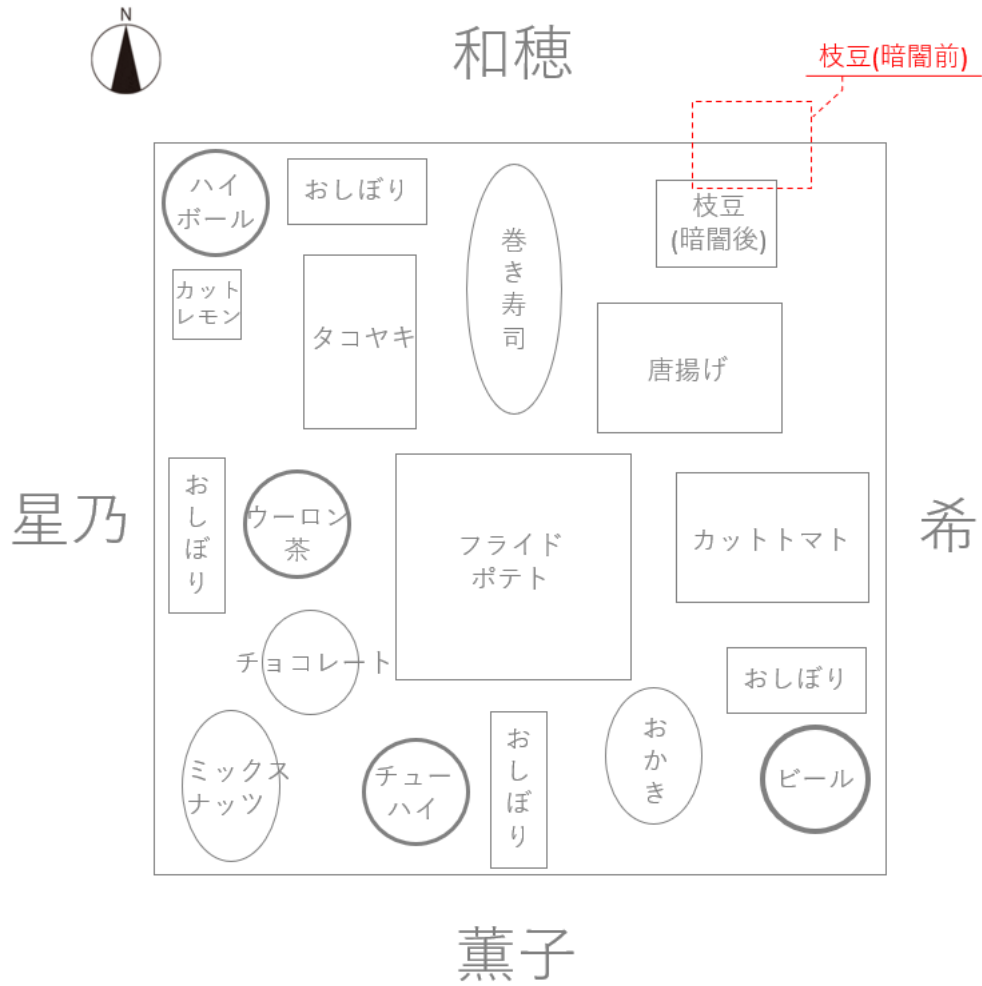
言うまでもない——そう、唐揚げにレモンをかけた犯人を特定することである。

- 共通情報 -

「見取り図」



「こたつ配置図」



「暗闇の前と後で変わったところ」

- ・こたつ上の唐揚げにレモンがかかっている
- ・こたつ上の枝豆の皿の位置が微妙に変わっている（こたつ配置図参照）
- ・和穂の席のカットレモンが搾りかす状態になっている（部屋の中にあるカットレモンはその一切れのみ）
- ・傘立ての場所が変わっており、傘は床に投げ出されている
- ・いちばん入り口に近いロッカーの扉が、開いた状態になっている
- ・今もなお、部屋にはレモンの匂いが漂っている

「こたつ」

- ・天板のサイズは80*80、脚の高さは50（単位はセンチ。以下同じ）
- ・どの席からも、手を伸ばせばこたつ上の物を取ることができる
- ・星乃・薫子・希にかけてのルートは一人分の幅しかなく、誰かがいる場所は通行することができない
- ・^{また}跨げない高さではないが、今は天板の上に物がたくさん乗っているため、暗闇の中で跨ごうとすれば何かしら物が倒れてしまうだろう

「電子レンジ」

- ・フラットテーブルタイプで、50*40*40 サイズ（幅*奥行*高さ）
 - ・冷蔵庫の上に乗っており、扉が北側を向くように置かれている
- （注：見やすさを優先し、見取り図には表示していません。注意してください）

「冷蔵庫」

- ・60*60*100 サイズ（幅*奥行*高さ）
- ・ちょうど上半分が冷蔵スペース（片開き式）、下半分が冷凍スペース（引き戸式）
- ・動かすには二人以上の人手が必要

「冷蔵庫の中身」

- ・暗闇後に確認してみたが、あまり多くない
- ・冷蔵スペース：醤油、マヨネーズ、チョコレート
- ・冷凍スペース：ロックアイス、冷凍食品数種

「キャビネット」

- ・100*80*80 サイズ（幅*奥行*高さ）
- ・両開きのタイプで、中には音楽雑誌やCDが整然と並べられている
- ・上には、金庫と、四人のスマホと、丸めたスーパーのビニール袋が置いてある

「ロッカー」

- ・ 60*60*180 サイズ（幅*奥行*高さ）
- ・ スチール製で、中にはドラムのスティックや音楽再生機器などが入っている

「金庫」

- ・ 40*25*25 サイズ（幅*奥行*高さ）
- ・ 鍵は”Knight Music”の部長が持っているらしい

「傘立て」

- ・ 60*30*50 サイズ（幅*奥行*高さ）
- ・ スチール製の、かなりしっかりしたつくりの傘立て
- ・ 暗闇の前と後で場所が変わっており、今は窓の前に置かれている（見取り図参照）

「傘」

- ・ 四人がスーパーで買ったビニール傘
- ・ 暗闇の前は傘立てに立てられていたが、現在は床に放り出されている

「窓」

- ・ カーテンは閉まっている
- ・ 四人の濡れた靴下がカーテンレールに干してある

「”Knight Music”の部室」

- ・ 部長の方針で、サークルメンバー以外は立入禁止である
- ・ 希がこの三人を連れて部室に来たのも、今日が初めてである
- ・ 楽器や機材は別の場所に保管されているらしく、室内には見当たらない

「床」

- ・ ところどころ雨水で濡れている

「”恥ずかしい話“」

- ・ キャビネットにしまってあった6面のダイスを使って話者を決めていた
- ・ 1が出たら希、2が出たら和穂、5が出たら薫子、6が出たら星乃が“恥ずかしい話”をするというルールだった（3と4が出たら振り直し）
- ・ この遊びをする時は、誰かが録音したりしないよう持ち物検査を行い、スマホは離れたところに置く 暗黙の了解がある（四人のスマホが、こたつから離れたキャビネットの上に置かれていたのはそのため）
- ・ 最終チェックのため、電気を消す直前にも持ち物検査をしたが特に不審な物は発見されなかった

【進行について】

- ・これから個人シナリオを読み込み、75 分の議論に移ります
- ・議論時間終了後、投票により犯人を特定してください
- ・最多票を獲得したキャラクターが^{だんが}弾劾されることとなります
- ・ただし、投票の結果、最多票獲得者が複数名いる場合は以下に通り処理してください
(各記号がどの PC を表しているかは、投票終了時まで明かされることはありません)

- 四人に一票ずつ入った場合 ⇒ (○○○) が弾劾される
- (□□□) と (○○○) が同数 ⇒ (□□□) が弾劾される
- (○○○) と (☆☆☆) が同数 ⇒ (○○○) が弾劾される
- (☆☆☆) と (△△△) が同数 ⇒ (☆☆☆) が弾劾される
- (△△△) と (□□□) が同数 ⇒ (△△△) が弾劾される
- (□□□) と (☆☆☆) が同数 ⇒ (□□□) が弾劾される
- (○○○) と (△△△) が同数 ⇒ (△△△) が弾劾される

【固有情報について】

- ・自分の固有情報を一つ全体公開することで、他 PL 一人を指名することができます
- ・指名された PL は、自分の固有情報をどれか一つ全体公開しなくてはなりません
- ・なお、指名されて行った全体公開では、新たに他 PL を指名することはできません

(例)

希が固有情報「希①」を全体公開 ⇒ 薫子が指名され固有情報「薫子①」が全体公開
この時、薫子は他 PL を指名することはできません


薫子が他 PL を指名して全体公開させるには、固有情報「薫子①」以外の未公開情報を自らさらに全体公開する必要があります

- ・ただし、固有情報をすべて全体公開しきった PL を指名することはできません
- ・固有情報をすべて全体公開しきったら「自分はもうこれ以上隠し持っている情報はない」と宣言しましょう (ここは嘘をついてはいけません)

※ 固有情報の全体公開は、口頭ではなくテキストチャット等へのコピペによる共有を推奨します。後から見返しやすいため)

- 禁則事項 -

- ・ 個人シナリオを見せたり、内容をそのまま読み伝えたりすることは禁止です
- ・ 同様に、自身の目標を他の人に伝えることも禁止です
- ・ 本シナリオでは自由に嘘をついて構いませんが、**物的証拠を捏造することは禁止**です
(例) シナリオに記述のない「血の付いたナイフ」を発見したなどと発言する

 では、個人シナリオに続きます。

プレイするキャラクターの個人シナリオ(別ファイル)を開き、読込に移ってください。

(まだプレイするキャラクターを決めていない皆様は、このタイミングで決定してください)

なお、誤って自分のプレイするキャラクター以外のファイルを開くことがないように充分注意してください。